

福島第一原子力発電所の廃炉の取組みについて 4 回目となる 海外メディア向けプレスブリーフィングを行いました

当社は、2023年8月24日から多核種除去設備等処理水（ALPS 処理水）の海洋放出を開始し、9月11日に第1回目の放出を完了しました。その放出の実績ならびに今後の計画を、海外メディアへ向けて発信するため、2023年10月4日にオンライン形式のブリーフィングを実施しました。

会見には、アジア、欧米、太平洋諸国、南米など10の国や地域・19社・21名の海外メディア関係者、および7ヶ国・8名の大使館関係者にご参加いただき、松本 純一（執行役員 福島第一廃炉推進カンパニープロジェクトマネジメント室長兼 ALPS 処理水対策責任者）から、1回目のALPS 処理水の海洋放出が安全に完了したこと、また、点検の結果、設備に問題など見られず、10月5日から第2回の放出を開始することなどをご説明しました。その後、事前に寄せられた質問や当日オンライン参加者からあがった質問に回答しました。

当社は、地域の皆さまや作業員の方々、周辺環境の安全確保を最優先に、福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを低減させる廃炉作業を計画的に進めるとともに、今後も科学的根拠に基づく情報を、国内外へ透明性高く発信してまいります。

◆ 説明内容

ALPS 処理水海洋放出の状況について

- ・第1回の放出実績
- ・放出後の設備点検結果と対策
- ・第2回の放出計画



会見の様子



質問に回答する ALPS 処理水対策責任者

◆ 主な質問とその回答

【質問】 放出基準を満たすために、平均して何回の ALPS での浄化処理が必要になりますか。

【回答】 ALPS は、1回の処理でトリチウム以外の放射性物質を、環境放出に関する国の規制基準を満たすまで浄化できる能力があります。なお現在、敷地内のタンクに約 134 万 m³ の水を貯蔵しています。そのうち約 7 割は、国の規制基準を満足しておりませんが^{*}、これらの水に関

しては、必ず海洋放出前に ALPS で浄化処理を行い、国の規制基準を満足させ、しっかりと 69 核種について測定した上で放出してまいります。

※現在、福島第一原子力発電所内のタンクには、原子炉建屋の地下に滞留した放射性物質を含む汚染水を ALPS などを使って浄化し、放射性物質の濃度を低減した水を貯留しています。そのうち約 3 割は、トリチウム以外の核種において国の規制基準を満たす ALPS 処理水であり、その他の約 7 割の水は、ALPS の運用当初に、規制基準を満たすことよりも、敷地内の放射物質濃度の低減を優先して処理していたため、トリチウム以外の放射性物質が国の規制基準を超えて残っている「処理途上水」となっています。これらの「処理途上水」は、海洋放出前にトリチウム以外の放射性物質が規制基準を満たすまで取り除く再浄化処理を行います。

【質問】 1 回目の放出の実績を全体としてどのように評価しますか。雨水の防水対策など一部に改良があったとのことですが、長期間放出を続けていく上で、維持管理についてなにか分かったことはありますか。

【回答】 第 1 回目の放出に関しましては、計画通り実施できたと考えております。ご説明させていただいたように、ベント弁のカバーのコーキングが一部不十分だった箇所や、一部上流水槽に塗装の膨れが確認されていますが、こういった知見を積み重ねながら、維持管理に努めてまいりたいと考えています。海洋放出設備全体に関しましては、いわゆる時間経過保全を適用しており、しっかり維持管理していきたいと考えています。

以上

動画・資料 URL

<会見動画（日本語）>

https://www.tepco.co.jp/library/movie/detail-j.html?catid=61697&video_uid=15096

<日本語版資料>

<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/images/231004j>

<会見動画（英語）>

https://www4.tepco.co.jp/en/news/library/archive-e.html?video_uid=15095&catid=69631

<英語版資料>

<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/images/231004e>